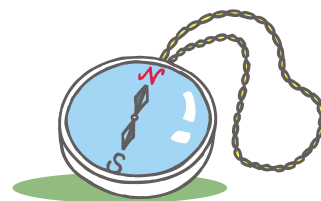


羅 針 盤

第 **18** 号 令和4年（2022年）9月12日（月）



◆ 「われわれ自身が生を短くする」

人間にとって、一瞬とは何秒なのだろうかといったことを考察したのは、ドイツの生物学者ユクスキュルという人です。彼が導き出した答えは、18分の1秒だったそうです。皆さんも見たことがある「映画」を映し出すためのフィルムは、光が投射されて映像が浮かび上がりますが、1秒間に流されているフィルムのコマ数が実は18コマで、1コマずつの間は暗転を繰り返しています。それでも、暗転が18秒分の1秒以内であれば、人間は知覚することができず、映像が滑らかに流れるように見えるという訳です。知覚という角度からこのことを捉えると、分割できない最小の時間が18分の1秒と言えるかもしれません。人生とは一瞬一瞬の積み重ねであると、語られることもよくありますが、明滅する18分の1秒のつながりだと考えてみると、時の大切さを改めて感じれるように思います。「時の大切さ」を感じて、そのことについて深く考えた人もいます。ギリシャの哲学者セネカが、その人です。彼は、「われわれの享（う）ける生が短いのではなく、われわれ自身が生を短くする」という言葉を残しました。時を慈しみ生きなければ、人生は早送りのように過ぎ去ってしまうということを意味する言葉です。一年、一日、一分、一秒といった、私たちの生活を刻む、時計で測ることができるものが「時間」で、その「時間」というものは誰にとっても平等に分け与えていて、同じように進んでいくものです。しかし、その時間を「消費」ではなく「浪費」してしまっているようなことが多々あるのではないのでしょうか。有意義な一日を過ごした後に感じるのは、時間の「長さ」ではなく、時間の「深さ」であると哲学者セネカは言います。自らの「時（とき）」を生きよと、促した彼の言葉からは考えさせられることが本当にたくさんあるように思います。

◆ ひまわりの季節も過ぎ去って…

ひまわりの花言葉は「憧れ」「情熱」「あなただけを見つめる」などで、太陽に向かって花が咲く様子に由来しているそうです。また、その姿が太陽に似ていることから「太陽の花」とも呼ばれていて、品種によっては高さが3mを超えるようなものまであるそうです。ひまわり畑のように、たくさんのひまわりが咲いている場所では、ひまわりが同じ向きに並んで咲いています。生徒の皆さんも知っているとは思いますが、ひまわりには太陽の方向を向いて咲く習性があるからです。ひまわりの花は、花が咲いてから枯れるまでいつまでも太陽を追いかけているようにも思われがちですが、ひまわりが太陽の方向を向くのは花が咲く前までで、花が咲いてしまうと向きを変えることはないそうです。ひまわりを題材とした絵画を描いた有名な画家と言えばゴッホでしょう。彼が描いたひまわりは、全部で7作品あります。これからの季節は絵画を通じて「ひまわり」を鑑賞してみたいはいかがでしょうか。（写真は、群馬県富岡市の丹生の丘のひまわり畑です。）

